

門真市第5地域包括支援センター活動計画書、活動報告書（令和6年度版）

資料4-⑤

●令和6年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	16
主任介護支援専門員の人数	24
介護支援専門員の数	41

●令和6年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率(%)
令和6年3月	315	22	293	93.0%
令和7年3月	341	29	312	91.5%

R6.12月時点 吉田5件 西島1件 伊藤7件 若林6件 渡辺4件 佐藤2件 岩谷2件 早野1件

	事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己 評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評
		回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数						
ケアマネ包括的継続的業務	事例検討会	1		1		2	20	1	12	1	12	3	・居宅介護支援事業所に事例検討会、及び勉強会を開催し、介護支援専門員の抱える課題の解決を目指す。研修会については、介護支援専門員のニーズに合った内容を全包括が協働し開催する。 ・居宅介護支援事業所、サービス事業所等機関と自立支援についての認識にまだ差異があると思われる。リハビリ専門職と協働することにより、高齢者の状態に即したケアマネジメントが実施できるよう支援する。 ・事例検討会では地域課題と言える（認知症、独居等）昨年度検討した事例を意思決定支援の考え方、プロセスを学び（大阪弁護士会から派遣）、意思決定支援の視点で再検討した。 ・はつらつ教室については、リハ職同行訪問の結果、緩和型サービスの利用につながるケースが多く見られる。本人の意向もあるが、その家族に事業に対して理解を得ることが難しい。広く住民に周知を希望している。 ・意思決定支援については、本市でも課題が多く、引き続き高齢者の権利擁護の視点からも検討をお願いしたい。 ・はつらつ教室については、受け皿の問題もあるが、市民への周知啓発も課題となっているため、市と協働して市民やケアマネジャーへの周知啓発などを行っていただきたい。 ・認知症高齢者の増加は圏域課題の一つである。認知症に起因する住民間トラブルの増加もあり、事例検討会では意思決定支援のプロセスを学んだうえで昨年度取り上げた事例を再検討した。 ・はつらつ教室件数は目標に及ばなかったが、受託事業所の体制等もありスピーディに利用できなかったことを勘案し評価した。次年度も地域住民とその家族には元気になるためのツールとして事業を周知を希望する。 ・元気はつらつ教室にに対するCMの周知に関しては、数十人の利用者を送り込んでおられるので、対象となるケース、必要な支援内容や教室参加前後の変化等を含めて圏域内での研修会の開催等を次年度は検討いただきたい。 ・高齢者数の多い圏域であるため、複合的な課題をもつ高齢者も多い中、地域課題に即した事例検討や研修を行っていることは評価できる。				
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0						
	研修会（法定外研修含む）	2		5	5	100	1	86	2	116	3						
	うち、他圏域との合同開催数			4			0	0	1	30							
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2		1	2	20	3	25	5	42	3						
	元気はつらつ教室利用者数（直持ち）		20		12		14	0		10	3						
	元気はつらつ教室利用者数（委託）				1		2	0		0	2						
元気はつらつ教室終了後ケアマネジメントB算定件数（3か月後／6か月後）		12		20		30	5		6	2							
ケア地域議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3		延べ3		延べ4		延べ1（実1）		延べ3（実3）	3	個別地域ケア会議については多職種、時には住民の参加により、地域で解決する問題として取り組む。また住民が地域の実情を知り、地域について考える機会となるよう地域にアウトリーチし圏域ケア会議を開催する。	圏域ケア会議は秋頃に予定。過去のデータに基づく地域の課題と、包括の日常の相談内容から浮かぶ地域課題を伝えることで、地域のために活動されている民生委員とのつながりを強化することも目的としている。	・各校区など住民に近いうちで会議を開催されたり、地域活動の要である民生委員との連携など今後の活動において、保険者としても重要と考えているため、今後も引き続き注力をお願いしたい。	個別地域ケア会議は虐待、消費者被害等権利擁護に関するものであった。圏域ケア会議は東小校区にて、共に地域づくりを協働する機関として圏域内ケアマネジャー、民生委員の参加により開催した。	圏域ケア会議では、地域の特性等を知ってもらい、参加者自らが何らかの取組を始めるきっかけづくりとしている。	
	圏域地域ケア会議	1		1		1	20	0	0	2	13						3
把介護事業防	基本チェックリスト実施件数		30		53		60		18		39	2	他機関、地域等からの情報提供や相談業務、介護予防教室で基本チェックリストを実施し、その心身と生活の状況から、必要時は早期介入を行い、フレイル予防の啓発を行う。	介護予防教室等でチェックリストを実施、記入者には強みを評価した上で取り組む事があれば助言している。後期もはつらつ教室をはじめ介入がが必要な方には一つのツールとして活用する。	今年度目標に対して、上半期の数が少ないようですので、下半期にも教室などの機会を用いてチェックリストを把握などに活用していただきたい。	介護予防教室や各通いの場に向きチェックリストを実施、記入者にはセルフケアの意識付けとなるよう、また必要であればはつらつ教室をはじめ支援介入のツールとして活用した。	チェックリストにより事業対象者の該当した方に対して、総合事業につなげる必要があるのかをスクリーニングし、来年度はその部分を強化いただきたい。
	上記のうち総合事業につなげた件数							0		0							
普及介護予防業	介護予防教室	12	120	12	184	13	200	8	136	13	223	3	介護予防教室については、住民が歩いて行ける場所にこだわり、身近な自治会館、集会所、地域の金融機関等で各地域に偏ることなく開催する。コロナ過からの課題であるフレイルの原因とその対処法等、効果的で、かつ住民のニーズに合った内容とする。	・介護予防教室は各地域、住民が歩いて行ける場所で開催している。内容については地域の課題に即した内容であるとともに、住民のニーズに応え、参加してみたいと思える、活動につながる内容の工夫も必要であり、担当の生活支援コーディネーターが各通いの場を定期訪問し、参加者の率直な意見を聞き取り、報告いただいたことを活かしたものとしたい。	・これまで住民に近い場所での教室開催を掲げて実現しており、上半期も着実に開催している。次年度については地域の声をもとにニーズに合ったものを、また認知症高齢者の増加という課題を踏まえて、認知症の早期発見とMCIの知識の普及、啓発に力を入れた内容を検討している。	今年度はフレイル予防、健康づくりに重きを置き、各自治会館や、公共施設をお借りし開催している。次年度については地域の声をきき、認知症地域支援推進員を中心に教室内容を検討いただきたい。フレイル予防については市の一体的事業とも連携し、今後も周知していただきたい。また、地域課題でもある認知症に関する取組を、圏域の医療機関との連携なども検討しながら、効果的に行っていただきたい。	
	うち、他圏域との合同開催数				0	0			0	0	0						0
	出前講座		3	48			1	18	2	36	3						
	うち、他圏域との合同開催数						0	0	0	0							
	介護予防教室・出前講座以外の普及啓発活動	1	10			2	16	0	0	2	57	3					
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	39						

地域 支援 事業	通いの場の開催支援	10	100	19	313	25	350	40	355	57	538	4	・既存の通いの場にリハビリ専門職の関与と体力測定を実施する。昨年度からリハ職と協働し、他運動の情報提供を行ったが今年度も継続し参加者のモチベーションを維持する。 ・リーダー不足、後継者不足の問題には、介護予防教室等を開催し新たな住民の参加を増やして住民自らが健康づくりを行う場として活性化させること、他地域のリーダー同士の交流会等を開催し後方支援を行う。 ・既存の通いの場には、体操がより効果的になるよう体力測定時にリハ職に助言や指導をいただくことでモチベーションアップを図り、他運動の情報提供を行っている。 ・通いの場に新たな参加者を増やすため介護予防教室を開催している。包括職員、生活支援コーディネーターが各通いの場を訪問し、体操の助言や介護保険等の情報の提供を行い、リーダーや参加者との関わりを続けている。 ・生活支援コーディネーターと連携して、新たな通いの場の創設や、既存の通いの場への支援など積極的にっており、上半期で今年度の目標を達成され、評価できる。 ・リーダーの成りて不足など、さまざまな問題はあると思うが、生活支援コーディネーターや、民生委員などとの連携を引き続きお願いしたい。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	10	130	10	140	3	48	8	91	4	
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	0	0	1	10	0	0	1	7	3	
	うち、他圏域との合同開催数			0	0			0	0	0	0		
介護 予防 拠点 の 開発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			15	200	16	210	16	178	17	183		圏域内自治会館の活性化を目指し、自治会関係者とのつながりをつくり新たな自治会館での通いの場の開設、介護予防活動の拠点づくりに生活支援コーディネーターに協力いただき取り組む。 生活支援コーディネーターの協力があり、地域住民の自治会離れと高齢化を危惧した自治会長に通いの場の必要性を理解いただき、通いの場が立ち上がった。後期も重点地区を定めて取り組んでいく。 生活支援コーディネーターの協力があり、地域住民の自治会離れと高齢化を危惧した自治会長に通いの場の必要性を理解いただき、通いの場が立ち上がった。後期も重点地区を定めて取り組んでいく。 コロナの影響で休んでいる通いの場があるため、再開への支援を予定している。また、空白地域への積極的な働きかけも予定されており、戦略的に取り組まれており、評価できます。 新規に2カ所の通いの場が立ち上がった。いずれも住民自身が地域の高齢化や住民の自治会離れ、住民活動の拠点である自治会館が活用されていないことを危惧し、住民からの発信により実現したものである。 新規に2カ所立ち上がった通いの場はどれも住民発信であった。包括が戦略的に通いの場の空白地域へのアプローチを続けた結果である。引き続き、空白地域のアプローチを続けていただきたい。 ご指摘の自治会離れについては全国的な課題となっているため、自治会によらない介護予防の形も少しずつ検討いただきたい。
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	1	12	1	10	1	19	2	24	4	
認知 症 総合 支援 事業	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		2		0		0	2	・認知症初期集中支援事業を地域に周知する。総合相談支援業務の中で包括内で対象者の把握と検討を行い、早期に医療、必要なサービスにつながるよう支援チームの発動に関わる。 ・圏域内に立がりつつある認知症カフェの開催支援を行い、住民がボランティアとして活動を継続できるようにする。 ・認知症について不安を口にする住民は多いがオレンジチーム等の事業が認知されていないことは課題であり、介護予防教室等で周知を行う。併せて相談業務の中で対象者を把握し発動相談につなげていく。 ・ようやく認知症カフェが立ち上がり、開催支援を行っているが住民主導の活動には時間を要すると思われる。 認知症力フェで担い手になりうる方はおられるが、消極的なため、サポートをしている状況にある。少しずつ住民が主導できるように養成をしてください。 認知症力フェは回を重ねることに参加者（住民）の中に事業の意義と必要性を理解下さる方もあり、今後担い手としての活動を期待したい。
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5			6	120	3	88	6	133	3	
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	0	0	1	15	0	0	1	11	3	
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0		
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5			40	80	21	73	50	206	3	
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0		
任意 事業	家族介護教室	1	5	1	23	1	25	1	21	1	21	3	・介護する家族の精神的支援と技術的な支援となる内容の教室を開催し、介護する者同士が交流する機会をつくる。 ・認知症本人とその家族が畑作業を通して地域住民と交わるれんかファームの活動を継続し、認知症の方を介護する家族の支援と地域の見守り体制を構築する。 ・介護者の心身のリフレッシュを目的に教室を実施。サポーター焼成講座は非活動のメイトに声をかけ準備を進めたが実現には至っていない。 ・計上は上記枠組みであるが、認知症等家族介護者の支援と地域住民の認知症の理解のためのれんかファームの活動は継続している。 ・れんかファームでの家族支援や地域との繋がりがつくりなど、今後も継続して実施をお願いしたい。 ・認知症サポーター養成講座参加者のうち、ステップアップ受講希望者も一定数存在するため、サポーター養成講座と認知症ステップアップ講座の開催時期の検討など効果的な実施方法についても検討いただきたい。 ・れんかファームは認知症当事者、家族介護者、地域住民とが畑作業を通して交わる場である。今夏も大学生ボランティアの参加があり、若い世代への啓発の機会ともなった。 ・第4包括と合同で見守り教室を開催、今後包括それぞれの強みを活かし、合同開催をメリットあるものしたい。
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）							0	0	0	0		
	認知症見守り教室	2	10			1	10	0	0	2	43	4	
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）							0	0	1	110		
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	0	0	1	5	0	0	0	0	2	
	介護者家族健康相談		1		0		1		0		0	1	
	認知症サポーター養成講座(一般)	2	10	3	68	3	70	1	18	2	22	2	
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0		
	認知症サポーター養成講座(ジュニア)	1	10	0	0	1	10	0	0	0	0	2	
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0		
対面 相談	休日 の 対 面 相 談			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数		
				1	1			2	2	5	5		